

事業名		道路改築事業		路河川名等	(-)塩田仁古田線				
事業毎の通番		2	市町村名	上田市	箇所名(ふりがな)	五加(ごか)			
事業概要	事業目的	一般県道塩田仁古田線は、上田市塩田地域と上田市仁古田地域を結ぶ路線であり、中塩田小学校の通学路に指定され、生活道路として利用されているが、当該箇所は、車道幅員が狭く、歩道が設置されていない。本事業は、車両通行の円滑化及び歩行者の安全確保を図るため、道路拡幅を行うものである。							
	しあわせ信州創造プランにおける位置付け	5-2 快適で暮らしやすいまちづくり(暮らしを支える道路網の整備)		事業実施の根拠法令等	道路法				
	関連する事業、計画等	上田都市圏総合都市交通計画 上田都市計画マスタープラン							
	保全対象・範囲 受益対象・範囲	計画交通量:5,400台/日(平成42年)							
	着手年度	H29	事業期間	6年間		事業費(千円)		財源内訳(千円)	
	完成年度(見込み)	H34	費用対効果	1.4		国庫	その他	県債	一般財源
	全体事業内容(主な工種)	道路築造工 L=360m W=6.0(12.0)m				400,000	220,000	162,000	18,000
年度事業内容(主な工種)	道路詳細設計、用地買収 一式				20,000	11,000	8,100	900	
事業効果	直接的効果(定量的・定性的)	走行時間、経費等の減少 4億円 安全な歩行空間確保(中塩田小学校通学路)							
	間接的効果(定量的・定性的)	地域間交流の促進 沿道環境の改善(踏切道の歩道設置、交差点改良による事故軽減)							
評価の視点	必要性	○代替道路の有無：代替道路があるが安全性低い(幅員狭小) ○交通結節点アクセス：中塩田駅へのアクセス ○生活支援・観光振興：教育施設との連携が發揮できる道路(中塩田小学校の通学路安全対策) ○地域の活性化：活性化に資する					評価	A	
	重要性	○関連計画、重点施策との整合：上田都市圏総合都市交通計画、上田都市計画マスタープラン ○緊急輸送路の路線指定：避難経路となる路線 ○地域指定：地域指定なし					評価	C	
	効率性	○費用対効果(B/C)：1.4 ○事業期間：6年間(H29~H34)(部分供用可能) ○工法等の比較検討：ルート比較検討を実施 ○他事業との連携：五加三池改修工事との調整					評価	A	
	緊急性	○近年の交通事故件数：8件(H25:3件、H26:0件、H27:5件) ○危険箇所対策：踏切拡幅、交差点改良 ○歩道整備：歩道未整備区間に歩道を整備、通学路対策 ○道路構造：現況幅員 5.0m					評価	A	
	計画熟度	○事業情報の共有：関係者を中心に周知(H27.3.18地元住民説明会実施) ○地域の取り組み：積極的な取り組みがある(県道塩田仁古田線・五加三池改修工事検討委員会) ○地域の合意形成：事業目的について合意形成が図られている ○住民との協働：通学路の安全確保の取組がされている					評価	A	
	部意見	事業の必要性、効率性及び、緊急性が高いため、平成29年度から新規事業化したい。	行政改革課意見	現道は小学校の通学路に指定されているが歩道は未整備で、幅員が狭く、円滑な交通に支障をきたしていることから、必要性、緊急性が認められる。	評価結果	○			総合評価

位置図

概要図

現道の状況

事業概要説明図表

①事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	当該区間の前後は道路が拡幅され、当該箇所はボトルネックとなっている。通学児童が多いが、歩道がないうえ、交差点部の優先道路が明確でないため、事故の危険性が公安委員会から指摘されている。このため、沿道の住居環境改善並びに道路交通の安全・円滑化を目的に地域から早期事業化が求められている。
②地域からの要望経緯及び地域の関わり	地域から市を通して毎年要望が挙げられている。当該事業に対し、これまで自治会長及び役員を中心に活動してきたが、H27年度からは検討委員会を立ち上げ継続的な地元対応が図られるよう地域の体制づくりが図られている。
③事業説明等の経緯	道路計画説明(H26.3.19 地元役員へ説明) 道路線形(H26.8.19 地元役員、H26.9.12 地元説明会実施) 道路用地幅(H27.2.17 検討委員会へ説明、H27.3.18 地元説明会実施(起点側100m))
④他事業・プロジェクトとの整合、関連	上田都市圏都市交通体系マスタープラン、上田都市計画マスタープラン 五加三池改修工事
⑤自然環境・生活環境への影響と配慮	住宅への影響を最小限に留め、前後の歩道をつなぐ道路改築により、良好な住環境の形成に配慮する。
⑥地域活性化への影響と配慮	本事業により地域内の安全確保、観光地間の交通の円滑化が図られ、地域の活性化が期待される。
⑦その他	

事業代表地点の緯度経度
北緯:N 36° 21' 47"
東経:E 138° 12' 14"